

# 「金色の風」たより

## ～ 令和4年度 第1号



発刊: 令和4年4月28日

胆江地方「金色の風」サポートチーム事務局(奥州農業改良普及センター)

TEL:0197-35-6742 FAX:0197-35-6303

「金色の風」Facebook「金色の風」たよりHP

スマートフォンやPCで御覧になれます。是非御確認ください。

←バックナンバー→ [http://www.pref.iwate.jp/kennan/oshu\\_noukai/063974.html](http://www.pref.iwate.jp/kennan/oshu_noukai/063974.html)

本年は春先の不安定な天候により、寒暖差が大きく、育苗管理に苦心されていると思います。

5月の1か月予報は高温の予想となっています。丈夫な苗を育てるために、ハウスの温度管理はきめ細かに行い、良質な苗を植えましょう。

今年度の「金色の風」も、昨年以上の出来秋を迎えられるよう、移植直後からの栽培管理を改めて確認しましょう。

### 今月の「金言」

～ 単収・食味の向上～

・技術上のポイントを紹介し、マニュアルがVer6.0に更新されました！ご確認ください。

「金色の風」栽培マニュアルは、令和4年3月に改訂され、バージョン6.0になりました。

栽培研究会会員の皆様には、最新版のマニュアルが届いていると思います。代かき方法と中干し時期が一部修正されています。マニュアルを一読し、内容を確認した上、栽培をお願いします。

直近の栽培管理のポイントは次のとおりです。

#### 【① 代かき・栽植様式】栽培マニュアル 10P

代かきは、排水性の確保のため、「練りすぎ」に注意して行いましょう。

令和4年度も適期移植と適切な栽植密度・本数を守り、初期生育を確保しましょう。

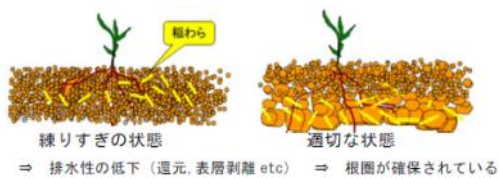


図1:代かきの状態

栽植密度:60株~70株/坪(約18~21株/m<sup>2</sup>)

植付本数:4~5本/株(80~90本/m<sup>2</sup>)

植付深:稚苗2~3cm、中苗3~4cm程度

#### 【② 初期生育の確保】栽培マニュアル 14~16P

高品質で安定した収量を得るには、健苗育成がまずは重要です。

徒長苗や老化苗を移植ないようにハウスの温度管理をきめ細やかに行いましょう。

移植後は、下記の図2と図3のように水管理を行い、初期生育と茎数を確保しましょう。

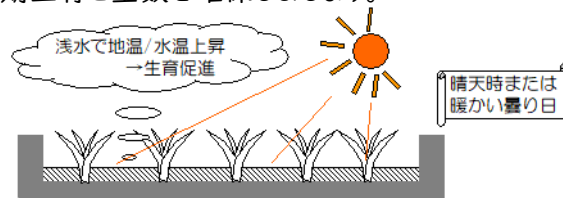


図2 好天時の水管理

日中と夜間の水温較差が大きくなるほど、分けつの発生が促進されます。

苗活着後は浅水管理を基本としましょう。



図3 低温時または強風時の水管理

### 胆江地方「金色の風」の取り組みについて

4月8日には「金色の風」レベルアップ検討会が開催されました。JA岩手ふるさと、JA江刺、JAいわて平泉が連携し、「金色の風」の品質向上に向け、今年度の取組について検討しました。

また、今年度改訂された新マニュアルでは「金色の風」の品質向上と倒伏軽減に向け、代かきや中干し等の栽培管理方法が修正されています。

さらに、栽培管理の見える化のために水位センサーの設置を引き続き実施します。また、高品質・良食味の「金色の風」生産に向け、今年度は、3JA合同の現地検討会を予定しています。

産地間の連携を強化し、栽培研究会活動を支援しています。

#### 編集後記

4月から「金色の風たより」を担当します。よろしくお願ひします。寒暖差が大きくなっていますので、ご自身の体調管理にもお気を付けください。

(奥州農業改良普及センター 主査農業普及員 小館 琢磨)

裏面は、より詳しい栽培管理について記載しています！

## 本田管理 ～初期生育を確保しましょう～

「金色の風」の移植適期は「5月10日～5月20日」です。適期に移植して、初期生育をしっかり確保しましょう。また、中干し開始時期(6月25日から)に注意して管理しましょう。

### 1 1次分げつを確保しよう

「金色の風」は「ひとめぼれ」に比べ、同程度の穂数ですが、1穂粒数が少ないため、収量を確保しにくい品種です。

良質・良食味生産には、主茎(おおもとの茎)や、生育初期に発生する1次分げつ(強勢茎)の確保が重要です。後から出る分げつ(弱勢茎)に比べ、1穂粒数が多く、未熟粒も少ないため、玄米の充実がよく、良質・良食味米になります。

このため、「金色の風」で品質基準をクリアしつつ、目標収量を確保するために、「栽植密度」や「移植後の水管理」を基本に実施し、強勢茎由来の穂の割合を高めることがポイントです。

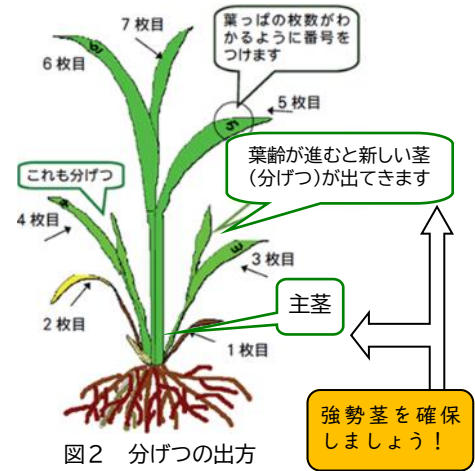


図2 分げつの出方

強勢茎を確保  
しましょう!

### 2 栽植密度を確保しよう

令和3年産では、栽植密度と植付本数を増やしたことで初期茎数が増加、単収の向上につながった事例が多数見られました。坪50株以下(15株/m<sup>2</sup>)の疎植栽培は、天候によって、玄米品質にバラツキが生じます。必要な分げつ数を早期に確保するため、栽培マニュアルの60～70株/坪(18～21株/m<sup>2</sup>)の栽植密度を守りましょう。

### 3 移植後の水管理について

移植後の水深は、葉先が2～3cm程度出る程度とします。活着後は、生育促進のため「好天時は浅水管理」、「低温時は深水管理」を基本とし、水温の上昇に努めましょう。水温の日中と夜間の較差が大きく場合に分げつの発生が促進されます。

なお、除草剤の移植同時処理後は、散布後3～4日は止水し、処理層を作るよう努めましょう。散布後7日間は落水、かけ流しは行わず、差し水により田面が露出しないように注意しましょう。

### 4 中干し管理について

中干し前までに、目標穂数の8～9割の茎数380本/m<sup>2</sup>(1株当たり20本前後)にしましょう。目標茎数に達していない場合でも、倒伏防止のため6月25日頃から「中干し」を開始しましょう。

## ワンポイントアドバイス ～初期生育～

Q1 田植え後、活着や初期分げつの発生が遅く、生育が遅れている。



- ・水温、地温が低いかもしれません。活着は水温が16℃～30℃で促進され、この範囲内で水温が温かい程、活着は早く進みます。好天時には、浅水管理で地温を上昇させましょう。
- ・ガスが湧いていませんか？稲わらの腐熟が不十分で、地温の上昇とともにガスが発生します。水の入替えや鉄資材の投入を検討し、次年度は耕種概要を見直しましょう。

Q2 6月中旬で目標茎数(380～430本/m<sup>2</sup>(20～23本/株))を超えている。



後から発生した分げつは穂にならない無効分げつとなり、青未熟やくず米が発生しやすくなります。

その場合、6月25日より前に中干しを開始し、無効分げつの発生を抑制しましょう。